

小中高生のための

税友あさくら

甘木朝倉地区税務連絡協議会

第61号

令和3年
12月



小学生の税に関する
絵はがきコンクール

第14回 優秀作品 **最優秀賞**



法人会長賞



中牟田小学校 6年
藤川 湧十 さん



甘木税務署長賞



杷木小学校 6年
養父 彩予 さん



法人会女性部長賞



東小田小学校 6年
友納 妃奈子 さん

税を
考える
11月
11日(木)~17日(水)

※この作品は令和3年12月の受賞作品です。

高校生の優秀作文

★甘木税務署長賞

「税金について考えたこと」

福岡県立 朝倉高等学校
一年 山下 琴音

「税と付き合う」

福岡県立 朝倉高等学校
一年 竹井 美佐

★福岡県久留米県税事務所長賞

「税金について」

福岡県立 朝倉東高等学校
一年 山下 若菜

「身近なもの」

福岡県立 朝倉東高等学校
一年 寺島 志音

★甘木朝倉地区税務連絡協議会会長賞

「消極的な考えよりプラス思考」

福岡県立 朝倉光陽高等学校
一年 柳生 空優

★朝倉市長賞

「税の役割」

福岡県立 朝倉高等学校
一年 澤田 美夢

★公益社団法人 甘木朝倉法人会会長賞

「消費税で日本を支える」

福岡県立 朝倉高等学校
一年 後藤 希彩

中学生の優秀作文

★甘木税務署長賞

「救われたふるさと 税金へありがとう」

朝倉市立 比良松中学校
三年 清水 姫乃

「税金の使い道」

朝倉市立 南陵中学校
三年 井上 陽菜

★福岡県久留米県税事務所長賞

「税金にももらった恩」

朝倉市立 甘木中学校
三年 古川 和篤

★福岡県納税貯蓄組合連合会会長賞

「学問のすすめと税金について」

朝倉市立 杷木中学校
三年 諫山 澄人

★甘木朝倉地区税務連絡協議会会長賞

「税金と借金の必要性」

朝倉市立 甘木中学校
三年 森園 太陽

★朝倉市長賞

「税金の大切さ」

朝倉市立 南陵中学校
三年 三好 雪月

★公益社団法人 甘木朝倉法人会会長賞

「税を納める理由」

朝倉市立 秋月中学校
二年 内田 征河



* 高校生の作文

甘木税務署管内の高校より、四〇四編の応募があり、その中から七編の作品が入選しました。

* 中学生の作文

甘木税務署管内の中学校より、三七七編の応募があり、その中から八編の作品が入選しました。

高校生の優秀作文

★甘木税務署長賞

福岡県立 朝倉高等学校
一年 山下 琴音

「税金について考えたこと」

税金には、所得税、消費税、相続税、たばこ税などの国税と、住民税、固定資産税、地方消費税、自動車税などの地方税がある。その税金は、警察、消防、公共の整備などの安心安全な生活を守るために、医療費、年金、水質検査など、私たちの健康的な生活に使われたり、文化的な生活をするためにも使われている。私は、特に、身近な教育について考えていきたい。

私は、小、中学校の九年間、人権学習を通して、無償化を始めた人たちの行動を起こした思いや、差別を受けてきた人たちの思いにたくさん触れてきた。そのような人権学習があったから、今の私たちは、当たり前のように学ぶことができ、正しい知識を得ることができ、正しい知識を得ることができ、環境に身を置くことのありがたさを感じることもできたのだと思う。これも税のおかげだ。もし、このような制度がなかったら、多分、環境が整った場所で勉強できていなかったと思うし、このようなことも学ぶことができなかったと思う。そうになると、言語も分からないし、

人の気持ちも分からないから犯罪が多くなってしまうと思う。そのような現状にあるのが、発展途上国だと思う。あるデータでは、刑務所の新受刑者の学歴は、中、高卒が最も多いということが分かっている。このようなことから犯罪の一因が十分な教育だということが言える。それと共に、教育の大切さ分かる。マララ・ユスフザイさんが言っていた「一人の教師、一本のペン、一冊の本、それらが世界を変える。」という言葉にもあるように、教育が人を変え、国を変え、世界を変えていくと思う。そのためには一部だけでも、税の力が必要だと思

う。安心できる環境で、正しい知識を学ぶことができる教育が、もっと平和な世界を作っていくと思う。

私は、平和な世界を作るには、税が必要だと思う。税は、悪いイメージが多いかもしれないけれど、なくてはならないものである。税は、教育だけではなく、医療などの様々なところで私たちを助けてくれる。だから、私が今してもらっているように、次世代の子どもたちにも教育を受けてほしい。そのために私は、将来、きちんと働いて、税金を納めて社会に貢献することができるとなりたいと思う。



★甘木税務署長賞

福岡県立 朝倉高等学校

一年 竹井 美佐

「税と付き合おう」

「税」この言葉を聞くとどのような税を思い浮かべるだろうか。大半の人が思い浮かべたのは、所得税、消費税、法人税といったところだろうか。「税」について私が興味を持ったのは中学三年生の頃だ。小学生の頃から「税」という存在はなんとなく知っていたが、詳しく学んだのは中学三年生の公民の授業だった。税金には、約五十もの種類があるらしい。中でも私は、「たばこ税」というものに興味を持った。

私の父は私が幼い頃からずっとたばこを吸っている。父だけではない。叔父も今は亡き祖父もみんなたばこを吸っていた。幼い頃からその光景を見てきた私には、見慣れた景色であった。

ある日、叔父に「コンビニで

たばこを買ってきてくれない。」そう頼まれた。私一人では買えないため、母と一緒にたばこを買いに行った。たばこを一箱買っただけなのに、一箱五百円以上したことに私はひどく驚いた。「たばこってこんなに高いのか。ここまで高いお金を払い、病気のリスクを背負ってまでたばこを吸う必要があるのか。やめてしまえばいいのに。」私は強くそう思うようになった。そんな時、授業でたばこ税というものを知った。使い道を調べたところ、たばこ税は私たちの地域の発展のために使われているらしい。その事を知った私はさらに驚いた。たばこなんてなくなってしまえばいいと思っていた私だったが、たばこがなくなるとデメリットも生まれてしまうということに

気づかされたのだ。たばこが世の中から無くなってしまえば、人々の健康や自然環境はよくなる。しかし、今までたばこ税で補っていた地方の発展のための費用が少なくなり、多くの人々が生活に困ってしまう。そう考えると、たばこの存在自体を消すという意見は、少し違うのかなと思えた。

ある日、たばこ税が増税されるというニュースを見た。ある人は、「二箱千円程度にしても良いのではないか。」と言っていた。私はその意見に賛成である。たばこを吸う人が多いと貴重な地方財源がたくさん集まることになる。増税により禁煙をする人も少なからずでくるだろう。少なくなることでより自然への影響は少なくなる。増税をすることにより、自然環境の改善や多くの人の生活が豊かになるのなら、そうする選択が最も良いと思う。他の国のたばこ税についても調べたところ、千円以上で販売している国は少なくなかった。他の国に

比べ日本のたばこは安い。だからこそ禁煙をしにくい環境にあるのだと思った。

私たちの生活に欠かせない「税」。「税」は複雑な物で、はつきり言って難しい。しかし、この「税」と上手く付き合っていくことで私たちの生活はさらに良くなるのだと思う。日頃私たちを支えてくれていることに感謝し、さらに上手く付き合っていくためにもっと理解を深めていきたい。



★福岡県久留米県税事務所長賞

福岡県立 朝倉東高等学校

一年 山下 若菜

「税金について」

税金とは、国や地方公共団体が、その必要な経費をまかなうために私たち国民から強制的に徴収するお金のことで、租税とも呼ばれている。この税金の種類といえば、所得税や法人税、特に私たちの生活に身近な消費税などが思い浮かぶだろう。しかし、調べてみると約五十種類以上のさまざまなものがあることが分かった。これらの税金に対して不満を感じている人は少なくないだろう。

中学校の公民の授業で、払わなければならない税金が高いが、高福祉な国と、払う税金は低い、低福祉な国、日本をどちらの国にしたいかという問いを与えられた。少子高齢化が深刻化しているなか終息の兆しが見えない新型コロナウィルスとも向き合わなければなら

らない現在の日本において、みんなで考える必要があると思う。そして今、高校生という立場である私たちは、自身で決断しなければならぬ。

私のこの問いに対する答えは、高い税金を払い、高福祉の社会を創り上げることである。ヨーロッパの国々で消費税が高いことは有名だが一部を除いたそのほとんどの国では国民の幸福度が高い。それは、学費や医療費等がすべて免除され、税金によって恩恵を感じられているからだ。日本の消費税は福祉関係に使われていると調べて分かった。けれど、今の税率では現在行なっているサービスを行い続けられるとは考えにくい。新型コロナウィルスによって現在よりも福祉サービスを手厚くしたり、給付

金を準備しなければならぬので、とても不安だ。そして、私たちが高齢になったらどうだろう。きつと経済的に厳しい生活を送ることになる。年金をもらう年齢になるまで高い税を払っていたとしてももらえないのかもしれない。私はそんな未来になつて欲しくない。

これを防ぐためにはまず、国民の税に対する意識を高めなければならぬと私は思う。徴収された税がどのように使われているのかを具体的に知ってもらうことで、税に対する不満をも

つ人が減り、この課題について一人一人が考え、少しずつ改善してゆけるかもしれない。

この社会あなたの税がいきている



★福岡県久留米県税事務所長賞

福岡県立 朝倉東高等学校

一年 寺島 志音

「身近なもの」

突然ですがあなたに家族はいますか。私は小学校五年生のとき父を亡くし、それから兄と姉と母と四人で暮らしていました。今では兄も姉も一人立ちし母と二人で生活しています。私

は今年高校生になりやっと働けるようになったので、少しでも家計の足しになるようコンビニエンスストアでバイトを始めました。

働くうちに色々なお客様の

対応をするのですが、その中で私がおどろいたのは六十代あたりのお客様がタバコを2カートン購入していったことです。タバコを購入していくお客様は少なくないのですが、こんなに多く購入していく人を見たのは初めてだったので鮮明に覚えていきます。よくタバコは「百害あって一利なし」と言われます。本来にその通りだと思えば、自分の体や周りの人の事を考えると禁煙したほうがいいのも事実です。みなさんはタバコ税というものを知っていますか。私は言葉だけしか知らなかったため、この機会に調べてみました。

タバコの値段は五百円以上のものがほとんどですが、その約半分は税金です。タバコは人体にとっても有害ですが、このタバコ税によって国が支えられているのも事実です。現に二〇一九年度国税収等の総計のうち、タバコ税は1.6パーセントを占めています。この税金は使道が限定される目的税ではないため市町村ごとにその用途を自由

に決めてもよいとされています。これにより生活の基盤となるインフラの整備や公共サービスの質を向上させることができます。

今回調べたうえで、私はやはりタバコがいいものとは思えませんでしたがこの国にとって重要な役割を担っているのも確かです。だから私はタバコ税にたよらなくてもいいように、他の税などを工夫して工面すればいいのではないかと考えました。そしてたまたまニュースで見ると脱税をするような政治家を選ばないためにもよく考えて選挙で投票したいと思えました。国民みんなで協力して明るい未来を作っていきましょう。



★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

福岡県立 朝倉光陽高等学校

一年 柳生 空優

「消極的な考えより、プラス思考」

私たちが大人になると必ずしも払うであろう税金。学校でよく教えられると思いますが、そこまで根強く頭には残っていないと思います。ただ知っておいて損はないと思います。そんな知識を私が調べた資料をもとにこの作文に書きたいと思います。

まず前提に日本の税金には約五十種類ほどのたくさん種類があります。ただその中でも聞き馴染みのある税金の使われ方もあると思います。たとえば年金や、学校で使う教科書、医療などの使われ方など馴染みのある税金の使い道はたくさんあります。やはり払う側の人にとっては消費税が上がっていくにつれ買い物しづらくなったり、何かを制限する人も多いと思えます。最近では消費税8%から10%に上がったたり、昔に比べて

物を買うにはお金がかなり必要になる時代になりました。よく聞くのは昔は今よりもっと安い値段でジュースなどが買えたなど、今の私たちがからすれば羨ましいと思えるようなことがたくさんあったと聞きます。ただ世間からすると羨ましいといったことだけでなく、消費税が上がったことで世間的に助かっていることは多いと思えます。たとえばお給料の中から引かれていた復興特別税です。復興特別税とは被災地の復興を目的とした税金です。この税金で仮設住宅の建設や、がれき処理や学校の復旧などの人を助けられる税金の使い道もあります。こういう話を聞くと消費税が上がったことについてのメリットなどもたくさんあると思いませんか？ただやはりその反面消費税が上がる

ことに少しの不満を持つ人もいます。その理由はやはり買い物をするためにお金がよりかかってしまうからです。ただ私は、そんな一つの理由のために不満を持つのは、消極的な捉え方だと思えます。もっと消費税が上がってからのメリットのことを考えてみると一回の買い物にとられる税金の意味がよく分かると思うし、自分が買い物した税金で世間に貢献できたと思えば、より良い買い物ができたと感じることができると思えます。

私がこの作文を通して何が言いたいかと言うと、悪いことばかりを見て物事を判断するの

ではなく、良いことを見つけようとする努力と、良いところを見つけたうえでの自分の行動です。良いところを見つけ、行動に移せば、喜んでくれる人がいるかもという期待と少し先の事を見据えて判断、そして行動をできると、よりよい未来になるんじゃないかなと思います。



★朝倉市長賞

福岡県立 朝倉高等学校

一年 澤田 美夢

「税の役割」

「税金」と聞いて私が思い浮かべるのは、「消費税」です。他にも、税金にはたくさん種類があります。

様々な税について調べていく中で、私はある税に興味をもちました。温泉を利用するときに課せられる「入湯税」です。税

収は、環境衛生施設や温泉施設などの整備、観光の振興に使われます。この入湯税は日本独自の税金です。「世界の国にも、入湯税のような独自の税金があるのだろうか」と気になり、調べてみたところ、耳にしたことがない税金がたくさんありました。

イギリスには渋滞税。ドイツには営業税。ハンガリーにはポテトチップス税。他にもあるが、これらの税金の共通点は、すべて国民の生活、健康などを守るためのものである点です。アメリカのウエストバージニア州で導入された「光るおもちゃ税」は、

激しく発光したり、火花が出るようなおもちゃに課せられる税金で、幼少期から銃が身近になり環境を作り、凶悪犯罪を防止するという目的で導入されています。その結果、犯罪数は低下し、ウエストバージニア州は全米でトップクラスの治安のいい州になったそうです。この税について知るまでは、どのような目的なのか疑問に思っていたが、このように税金が犯罪数の減少

につながると知り、税金の大切さがより伝わってきました。

また、現在、新型コロナウイルス感染症が流行している世の中でも、税金は大きな役割を果たしています。新型コロナウイルスに感染した場合、入院費用、治療費は公費負担になるため、自己負担がかかりません。税金が使われているからです。このことを知ったとき、税金の存在の大きさを感じました。

私はこれらのことから、すべての税金が、私たちの生活や健康を守るために必要不可欠であることを改めてよく実感しました。普段何気に生活していることも、税金が使われていると感じることがあまらぬかもしれないが、普段の生活を送ることができるということ自体が、税金のおかげである。税金がなければ道路を通るとき、さらには、市民の安全、命を守る交番や救急車も有料になってしまいます。私はこれから、税金の役割について、さらに知ってきたいです。

★公益社団法人 甘木朝倉法人会 会長賞

福岡県立 朝倉高等学校

一年 後藤 希彩

「消費税で日本を支える」

私たち日本人が義務づけられている納税。住民税や所得税、自動車税など、さまざまな種類の税金を支払わなければならない。その中でも、高校生である私にとって最もなじみがあるのは、消費税だ。そんな消費税は、二〇一九年十月に、税率は八パーセントから十パーセントに引き上げられた。私は、この増税について、日本にどのような変化があったのか、知りたいと思った。

増税が行われて、私が困ったことは無く、特に変化は無い。しかし、確実に国民の負担は増加しただろう。実際に、八割以上の人が負担を感じているという。それにより、外食を減らすなど、増税後の生活は大きく変化した。では、国ではどうだろう。たった二パーセントの増

税だが、国の税収はとも増えている。そして、国の税収が増えれば、公共事業や災害復興などに使うお金が確保できるようになる。国民のお金によって、国の税収は安定しているのである。

しかし、それらの税金は、十パーセントではまだ足りないと言われ注目を浴びている。消費税十パーセントで負担を感じる国民もたくさんいるため、これ以上増税をすると、国民の負担だけではなく、不満も高まると私は考える。では、足りない分をどのように補っていくべきなのだろうか。まず、所得税を増やすのはどうだろう。所得の多い者から、税金を多く集めるので、所得の少ない者の負担は少なくなる。しかし、所得により負担する額が違うため、

公平とは言えない。また、景気の変動に左右されやすく、安定した税収は得ることができないと考えられる。次に、たばこ税や酒税を増やすのはどうだろう。消費税分をこれらの税で補おうとすると、たばこや酒の値段は、今よりもずいぶんと高くなるだろう。そのため、これはほぼ不可能だと考える。すると、やはり消費税をさらに増税して補うしかないのだ。増税による国民の不満を乗り越えるためには、国民の税金に対する十分な理解と、国の正しい税金

の使い方が大切だ。今、私たちには、税金についてもっとよく知ることが求められている。このようなことから私は、消費税に対して嫌悪感を抱かずに、国のために支払うお金だという気持ちを持つとうと思った。将来を担う私たちは、この税問題に責任を持ち、自分の意見を述べ、社会の一員として生きていく。何十年後の日本で、税問題が少しでも良くなり、国民全員が生きやすい社会であることを願って、生きていきたい。



中学生の優秀作文

★甘木税務署長賞

朝倉市立 比良松中学校

三年 清水 姫乃

「救われたふるさとへ税金へありがとう」

その日、私たちのふるさとは一変した。

二〇一七年七月、ちょうど梅雨の季節だった。その日は朝から猛烈な雨と激しい雷が続いていた。

当時私は小学五年生だった。教室中に響き渡る雷と打ちつけるような雨の音にクラスメイトは心配そうに外を見ていた。何時間も変わらない様子に涙を流す友達もいた。その日は、保護者に迎えに来てもらい、下校するという形になった。私は母と一人の弟、そして二人の妹と家へ帰った。母は私たちを下ろしてすぐ、中学生の兄を迎えに行った。

すぐニュースをつけた。初め

てみる光景にただ呆然としていた。母と兄が帰ってきた頃には、父からの連絡がはいっていた。

「家に帰れない。」

メールで見たその一言は一生忘れない。

その日私たちは、あふれだす濁流、降り続く雨と共に一夜をすごした。

次の日、カーテンをあけると、いつものようにまぶしい光はなかった。動けなくなった四台ほどの車、道路に残された泥、そしてボランティアを行う人々。信じられなかった。信じたくなかった。不安をかかえて送る毎日に楽しみが消えていった。

しかし、豪雨から一週間後、

私たちのふるさとのシンボルを見た。豪雨の直後、ニュースで見た光景とは大違いだった。泥がたまり、雑草でうまっていたシンボルの水車。今となっては元気にまわり続けている。ふと目をやると、住宅もすっかりきれいになり、だんだんと笑顔が戻っていった。

短期間で私たちのふるさとを救ってくれたもの。それは税金だった。もちろん、当時の私は税金のことなどよく分からなかった。税金で町がこんな

変わることに、私は驚きが隠せなかった。

国民みんなの税金が私たちのふるさとを明るく活気のあるものに戻してくれた。私は、そのことを知ったとき、とても嬉しい気持ちになった。

私たち国民は、税金と共に生きていく。その税金で救われる人がいる。

中学三年生になったから伝えたい。当時、私たちのふるさとを救ってくれた税金へ。本当にありがとう。



★甘木税務署長賞

朝倉市立 南陵中学校

三年 井上 陽菜

「税金の使い道」

二〇二〇年のはじめごろから、今まで出会ったことのないウイルス、「新型コロナウイルス」が全世界で流行し始めた。その影響は皆の想像よりもはるかに大きく、オリンピックなどの大きなイベントや、学校の行事などが次々に延期、中止となった。また、外に出かける際にはマスクをつけるのが常識となり、今ではどの店にも、入口に手指消毒用のアルコールが設置されている。

政府はこのコロナウイルスの広がりや、それによる飲食店などの経営困難に対し、緊急事態宣言を出したり、お金を給付したりするなど、たくさんの手を打った。

実は、これらの政策には、普段私たちがおさめている税金が、大きく関わっている。私は

このことをつい最近知った。

二〇二〇年の夏、政府が、日本全世帯に、布マスクを配布したことは、多くの人が強く覚えていた。結局、この政策は、大きな批判を呼ぶこととなってしまった。しかし、このマスクが配布されたことで、コロナウイルス感染予防に対する意識が高まった人も、少なからずいるだろう。

また、二〇二〇年の春には、全国民に、一人十数万円ずつが給付された。このお金も、実は税金から来ている。自分たちのおさめた税が戻ってきただけだと思ってもいいかもしれない。この十数万円は、多くの人にとって、大きなものとなったと思う。コロナの対策に使う人も

いれば、自分の好きな物を買ったり、貯金をした人もいるだろう。これによって少しずつ経済が回っていったのだと思う。

このように、私たちがおさめる税金は、私たちに見るところで利用されているときもあれば、私たちの知らないところで、良い方法で使われている場合もあるし、人々を助けるために使われるときもある。このコロナウイルスに対する政府の動きのための税金は、人々を大いに助

けたと思う。時々、批判されることもある。しかし、私たちのおさめた税金が、だれかのためになっているのなら、それは良い使われ方だと言えるだろう。



★久留米県税事務所長賞

朝倉市立 甘木中学校

三年 古川 和篤

「税金にもらった恩」

僕は、保育園の頃にアレルギーを起こし、呼吸困難になったことがあり、急いで救急車で病院へ行き、治療してもらったことがあります。そのお陰で呼吸困難も治り、命を救ってもらったことがあります。

その時の急な出来事は近く

にいた両親と祖母もすぐに状況を整理できなかつたみたいでとても慌てている様子が見えませんでした。自分も急に息が出来なくなつてどうすればいいのか分からなくなり、もう死ぬかもしれないと思っていました。その時に、いち早く気づいてくれた祖

母が救急車を呼んでくれて、父と母は出来るだけ呼吸がしやすい体勢にしてくれて、少し楽になり、そのまま救急車がくるのを待っていました。救急車は思っていたよりも早く来ました。そのままその中で応急処置をしてもらいながら病院へ行きました。病院で治療してもらい、呼吸困難が治りました。

それから何年か経ち小学生になって税金のことについて習いました。その中で医療費や消防費などにも税金が使われていることを初めて知り、とてもびっくりしました。もし、税金が無かったら僕はあの時に死んでいたかもしれないと、税金があつて本当に良かったと思いました。

このことがあつてから、税金が何のためにあるのか、自分なりに色々考えるようになりました。税金というのは自分が経験したことによって、色んな価値観が生まれるものだと思います。僕も税金というものがなんなのか習うまでは税金を支払う

ということはお金を取られるだけだと思っていました。でも税金に救われる経験をして、税金を支払うということは自分や自分以外の人達を助けることにならることだと考えるようになって、税金というのは国にお金を払っているだけではなく、国からの善意だったのだなと思うようになりました。

これからも僕や周りの人達の命が危険にさらされることがあるかもしれないし、僕は命を一度救われているから、今度は周りの人を助けられるよう、これからも税金を納めていき、大人になったら、少しでもたくさん働いて恩返しをしたいと思いました。



「学問のすすめと税金について」

★福岡県 納税貯蓄組合連合会 会長賞

朝倉市立 杷木中学校
三年 諫山 澄人

「政府は法令を設けて悪人を制し善人を保護す。これ即ち政府の商売なり。この商売をなすには莫大の費なれども、政府には米もなく金もなきゆえ、百姓町人より年貢運上を出して政府の勝手方を賄わんと、双方一致の上、相談を取極めたり。これ即ち政府と人民との約束なり。」これは、壱万円札で有名な福沢諭吉が著した「学問のすすめ」の一節である。この中で福沢諭吉が言っているのは、政府は私たちの生活や安全を守る責任があるが、守る為には沢山のお金が必要になる。しかし、政府には私たちを守るだけのお金がないので、税金を皆に負担してもらうことで私たちの生活を守るという約束のことである。

ある病気で病院を訪れた時の事である。治療を受け、処方箋をもらってから薬局に向かった。とても沢山の薬を処方してもらったので、どれだけの料金がかかるのか心配したが、薬剤師の方から、「公費で賄われているのでお金はいりません。」と言われた。

なぜ治療費や薬代がかからないのか疑問に思つて父に聞くと、「病気になった時、お金がないから病院に行けない、となると大変なことになるだろう。そのため、国民医療費としてかかった金額の一部に税金が使われているんだよ。」と教えてくれた。

これこそまさに、福沢諭吉が記した通り、政府が私たちの生活や安全を守るためのお金だと痛感した。その他にも、老後安心して暮らしていくために国から受け取る年金が使われ

ていることを知ることが出来た。困った人を助ける為の税金の仕組みの良さを感じる事が出来た。

ここで忘れてはいけないことが二つある。一つは、今回のように治療費や薬代にお金がかからなかったとはいえ、実際には費用がかかっており、お金が支払われていることである。当然ながら税金には限りがあり、国民の納税が無いと、国の財政はひっ迫してしまう。

財政がひっ迫すると、政府は私たちを守ることが出来なくなる。このことをしっかりと理



解し、感謝しながら薬を飲む必要がある。もう一つは、「政府と人民との約束なり」とあったように、政府に私たちの生活や安全を守る責任があると同時に、私たちには税金を納める義務があるということである。一方的に守ってもらっただけではなく、納税の大切さを知り、私たちが納める税金によって、困っている人を助けることが出来るということをしっかりと理解することにより、政府と私たちのお互いが約束を守ることが可能になるのである。

★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

朝倉市立 甘木中学校
三年 森園 太陽

「税金と借金の必要性」

「税金が国を支えている」このことは、間違いのない事実である。税金は、国を動かすために必要なものであり私達が常日頃使っている学校や各地域の安全、安心を守っている警察や消防、自衛隊にも税金は、使われている。しかし私は、税金に対し違和感を感じ、この題について作文を書くことにした。

私が税金に違和感を覚えたのは、私が中学一年生の頃消費税が十パーセントに引き上げられた時であった。その当時の私は、ただただ消費税が引き上げられることがイヤだったのでなぜ消費税が引き上げられたのか調べてみた。すると国の借金、いわば国債が令和元年時点で約九百兆円にのぼったことが理由の一つとしてあげられていた。そのため私は、日本の国債につ

いてさらに詳しく調べてみた。すると日本は、いくら約九百兆円の国債を背負っているとしてもそれは、ほとんどが国内への借金であるため、昔江戸幕府が幕末にフランスにお金を借りていた時のように日本の土地が担保になっっているわけではないので日本の土地が失われることはない。さらに日本に日本の国民がお金を貸しているということとは、日本の国民がそれだけお金を持っているということになり日本の国の借金が約九百兆円ということは、日本の国民が約九百兆円をもつお金を持っているということが証明される。また日本の借金が増え続けるということとは、国にお金を貸すだけお金を持っているということになり日本の国民の持っているお金の量が増え続けているという

ことも証明される。

また国が借金している金額が、少なくなると一見良いように見えるがもちろんその額で十分な政府事業を行えるならそれが一番良いのだがそう上手く社会は回らない借金を少なくして十分な政府事業が行われないようになったり今のようない景気な時に増税してより景気を悪くしたりするぐらいなら先程文章で述べたように「借金」という言葉の響きや一見は、悪そうに見えるけれども裏返せば日本の国民がそ



れだけお金を持つているとも受け取ることもできるもののが、国が社会経済の為に考えることができるかと私は、考えた。

このように私は、「国が莫大に借金をしている」ということが百パーセント悪いわけではなく良い面もあること、また国の借金が、莫大ということに焦り逆に景気が悪くなるような「増税」に一本道に走り続けるようなことは、してほしくないと思う。

★朝倉市長賞

朝倉市立 南陵中学校
三年 三好 雪月

「税金の大切さ」

日々の生活で納めている税金は、私たちが「健康で豊かな生活」を実現するために必要なものなのです。社会で生活していくうえでなくてはならない税金ですが、社会の変化に合わせて、税について今までよりもっと考えていく必要があります。

例えば、これからの日本の将来にとって重要問題とされている「少子・高齢化」です。

少子・高齢化では高齢者が増えることによって税金で使われている医療や年金、介護などに必要なお金が増えていくこととなります。そこで高齢者の生活を支える若者ですが、これから高齢者の割合に対し、減少していく傾向にあります。今までの税のしくみでは、三・六人の若者が一人の高齢者を支えていたのが近い未来では、一・三人の

若者が一人の高齢者を支えなければならぬと予想されています。そのため若者の負担も大きくなり、高齢者の生活はもちろん、私たちの生活まで支えていくのが難しくなると思います。

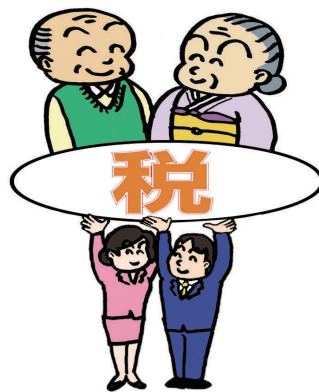
また少子・高齢化のほかに「国の借金」も問題となってくると思われます。私たちの生活のために国がやらなければならぬ仕事はたくさんあります。そのため、必要なお金は税金だけでは足りないのです。そこで国に入ってくる税金、約六割の残りのうち四割は公債金という借りたお金でおぎなっています。しかし、この公債金は借りたお金なので返さなくてはなりません。今年には特にコロナウイルスの流行により、多くの税金を使うこととなります。令和三年度は、返さなければならぬ

お金が約九百九十兆円になると見込まれており、この先、返さなければならぬお金は増えていくとされています。このことから国の借金についても今、日本で問題視されています。

二つの問題から国も国民一人一人もたくさんの負担がかかると考えられます。まずは税のきまりである「納税の義務」などについて知り、理解することが大切です。逆に税を納めることは負担がかかるだけでなく、私たちの健康や生活を守ることや道や住宅の整備、教育や科学技術への支援、また災害時での寄

付に使われており、私たちの生活を陰ながら支えています。

これからは、税金の意味や使いみち、大切さについてよく考え、お互いがお互いを思い支え合っていく必要があると私は考えます。



とは何か知っていますか？消費税とは商品の販売やサービスの提供など取引に対して課税される税のことです。

消費税には二種類あり、一つ目は軽減税率（八パーセント）食品関係などに対する税金の事です。二つ目は、標準税率（十パーセント）食品以外や店内で飲食をするときなどに掛かる税金の事です。他にも調べてみるとたくさん種類があります。

「住民税」意味は住んでいるまたは会社がある都道府県、市町村に納める税金のことです。

「法人税」意味は法人、会社の所得に対してかかる税金のことです。

「酒税」意味は、日本酒やビールなどのお酒に掛かる税金のことなど、約五十種類もあります。なぜ税金を納めるのでしょうか？実は大切な意味があるので。それは、さまざまな税金を納めることによって僕たちみんなが安心安全な生活を送るために必要な事なのです。

例えば、病院での治療費も本人負担は一部で社会保障により個人負担金を減らしても

★公益社団法人 甘木朝倉法人会会長賞

朝倉市立 秋月中学校

二年 内田 征沅

「税を納める理由」

皆さんは、日々の生活を過ごす中で税金とは何か考えた事がありますか？税金とは、僕たちの暮らしに必要な施設利用やサービスにかかるお金をみんな

で負担するために国や自治体に納めるお金のことです。

みんなが税金と聞いて、まず頭に思い浮かべるのは「消費税」だと思えます。そもそも消費税



らっています。僕たちが日頃から使っている学校の校舎や教科書など勉強をする際に無くしてはならないものなどもそうです。町をきれいに保つためのごみ収集車や道路の整備などたくさん税金に助けてもらいながら僕たちは生活をしているのです。もし、税金を納めなかつたら、どのような生活になつていたでしょう？

僕は、治療費も高額になり救急車も呼べず火事になつても消防車も呼べず、環境整備もとのわず、困ることしかなく想像するだけで不安でたまりません。

この税について作文を書いていくうちに、みんなが納める税金のおかげで安心・安全で豊かな生活が送れることを忘れてはいけない。そして、感謝をしなくてはならないと思うことを考えさせられました。

この豊かな生活があたり前であり続けるために、一人ひとりが税金の大切さを再確認し先の未来につなげていけるようにならなくてはと思います。

税の標語

全国間税会総連合会 入選

おさめよう コロナとともに 税金を

比良松中学校 二年 徳永 璃乃

脱税は マジダメゼツタイ ヤメマシヨウ!

比良松中学校 二年 田中 康汰

税金で 僕たちの夢 叶えよう

東峰学園 七年 青木 野乃花

税金は 明るい「まち」をつくっていく

南陵中学校 三年 下田 真依

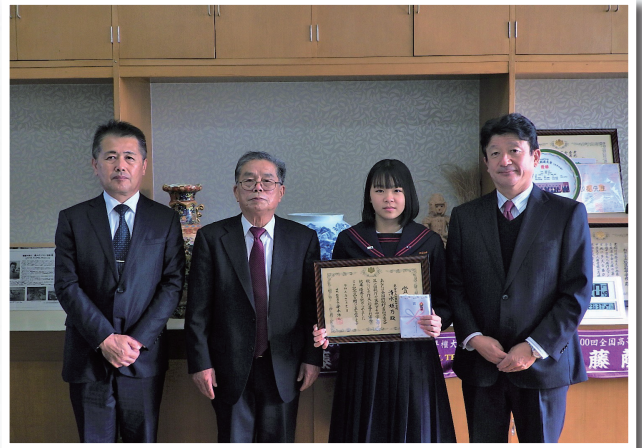
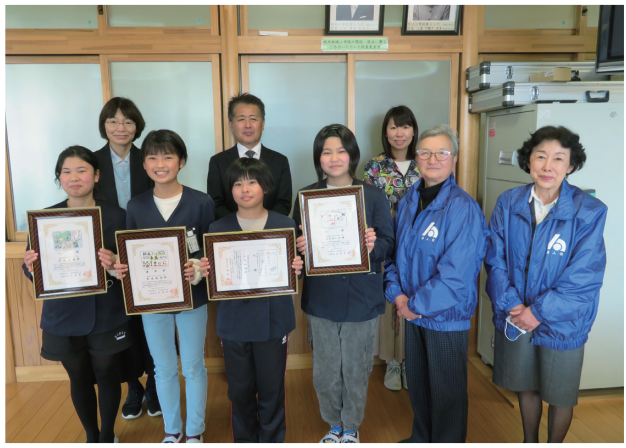
生かそうよ 社会を守る 消費税

南陵中学校 三年 堀内 優亜

甘木朝倉間税会が募集した「税の標語」です
本年度は管内中学校7校から1,584点の応募がありました。

租税教育活動を やっています

甘木朝倉地区税務連絡協議会では、構成団体が協力し、税知識の向上及び納税意識の高揚を目的にさまざまな活動をおこなっております。



甘木朝倉地区 税務連絡協議会とは？

★構成団体は？

- ・ 公益社団法人甘木朝倉法人会
- ・ 甘木税務署管内
青色申告会連合会
- ・ 甘木税務署管内
納税貯蓄組合連合会
- ・ 朝倉地区
税務相談所運営協議会
- ・ 甘木朝倉間税会
- ・ 甘木税務署管内酒類業懇話会
- ・ 九州北部税理士会・甘木支部

★何をしている団体ですか？

- ・ 一般の方々の税知識や納税道義の向上を目的とした様々な活動を行っています。
- ・ 中学生や高校生の税に関する優秀な作文を表彰する等して、租税教育の支援をおこなっています。